

市町村基本理念

「子どもに夢 青年に希望高齢者に生きがい」

学校・家庭・地域の絆を大切に、子どもたちから大人まですべての市民が生涯にわたって学びあい、豊かな心を育みあうことことで、さまざまな場面で活躍できる人づくりと学びのまちづくりをめざす。

学校経営理念

学び合い・関わり合い、自ら伸びる学校づくり

働き方改革を進めるとともに、教育課程や学校生活を通して、一人一人の良さや違いを認め合える気運を醸成し、児童や教員が、学び合い・関わり合いを通して、日々の生活や活動を自己の成長につなげることができる佐古小学校の学校文化を創造する。

学校経営方針

(1) 学ぶ意欲を引き出し、自ら考え、他人と学び合う楽しさを味わいながら、つくれるべき力が身につく授業をつくる。
(2) 他人とよりよいかかわる力や豊かな心を育み、安心で温かく活力のある学級、学年、学校をつくる。
(3) コミュニティスクールの取組を通して、学校を開き、家庭・地域とさらに連携・協働し、地域を愛する子供を育てることで、地域と共にある学校をつくる。

学校教育目標

伝え合い 学び合う 佐古の子

研究主題

自ら学び、自分の思いや考えを表現できる子供の育成をめざして～ 他者に配慮したコミュニケーション能力の向上～

中期計画＜令和(5)年度～令和(8)年度＞		現状＜○強みと●弱み＞		目標＜3年後の到達指標＞		行動指針＜3年間の取組方針＞		評価	検証・評価＜3年間の総括＞
知		○外国語活動や外国語の授業では、主体的に関わり合い、進んで授業に参加している児童が多い。(外国語意識調査「進んで授業」95%以上) ○学び方を指導すると主体的に学習に向かおうとする態度が見られる。 ●文意を正しく理解すること(読み取ること)に苦しさがある。 ●自分の考えを目的や条件に応じて適切に伝えることが不十分である。(全国調査：国・3.8算1.2、県調査：国4.0算7.7、標準調査：国・4.5算・0.3) ●支援が必要な児童の増加に伴い、学力の二極化が顕著となってきた。(標準国算平均：6年2.8～5年・1.9→4年1.9→3年・10.4→2年・4.2)		【全国学力学習状況調査正答率】(国・算)全国・高知県平均以上 【高知県学力定着状況調査正答率】(国・算・理)全国・高知県平均以上 【標準学力調査正答率】(国・算)全国平均以上 【学力調査正答率】経年比較での向上 【魅力生活アンケート】「授業に主体的に取り組んでいる」強肯定80%以上「授業がよく分かる」強肯定75% 【さいこうの学校づくりアンケート】「話し合いを通じて、友達意見を参考にし、自分の考えを広げている」96%以上 【生活がんばりカード】家庭学習(低20分・中40分・高60分以上)90%以上		◇確かな学力の定着 ◇児童主体の授業づくりの推進 ◇指導と評価の一体化 ◇基礎基本の定着と家庭学習の習慣化(デジタルドリルの活用) ◇書く力の育成 ◇1人1台タブレット端末を日常的に活用し、個別学習や協働学習の充実を図る。 ◇スタートカリキュラムの見直し ◇学習のきまりの定着			
		○「学校が楽しい」の肯定が90%を超えている。(R4：強72%、肯定92%) ○「みんなで何かするのは楽しい」の強肯定が80%を超えている。(R4：84%) ○家庭環境に恵まれた児童が多く、長期欠席児童が少ない(R4：1名) ○素直で明るい児童が多い。 ○定期的・計画的に校内支援を行い組織的に取り組むことができる。 ●あいさつができていないと感じている保護者が3割近くいる。校内だけでなく家庭や地域での挨拶が課題である。 ●暴力を受けたことがある児童の割合は1割だったが、さいこうの学校づくりアンケート「先生はなんでも相談しやすい」は強肯定が7割だった。		【魅力生活アンケート】「学校が楽しい」肯定100% 「みんなで何かをするのは楽しい」肯定95%以上 【道徳意識調査】「道徳の授業が好き」肯定90%以上 「自分には良いところがある」肯定90%以上「人が困っている時は、進んで助けている」低肯定95%以上 中・高肯定90%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】「だれにでも進んであいさつができる」肯定93% 「学校の先生は話を聞いてくれる」93%以上		◇安心・安全の学級づくり ◇道徳心を育む心の教育の充実 ◇いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校への取組 ◇自尊感情を育む取組(異学年交流等) ◇道徳の授業公開(全学級年間1回) ◇あいさつの定着 ◇掃除の徹底 ◇発達障害と愛着障害についての理解とUDの推進			
		○5年生「運動が好き」の強肯定が男子は84.6%、肯定92.4%。女子は肯定100%。(強68.4%) ○5年生「運動は大切」男子肯定84.6%、女子は肯定100%。 ○生活一般において、いわれたことは取り組もうとする素直さがある。 ●教員の体育科の授業改善に対する意識は、国語科や算数かに比べて低い。 ●共働き家庭が多く、家庭での基本的生活習慣が身に付きにくい面がある。(児童クラブへ通っている児童82名、放課後デイに通っている児童11名) ●徒歩通学が7割となっている。		【全国体力・運動能力調査】体力合計点全国平均以上、D・E評価割合25%以下 【さいこうの学校づくりアンケート】「体を動かすのが好き」肯定92%以上 「学校のきまりを守っている」90%以上 体力アップチャレンジカード以外で「体育の授業が好き」肯定92%以上 「こうちの子ども体力・運動能力プログラム」を活用した授業を行った100% 「生活がんばりカード」早寝90%以上(R4：78.9%) 朝食摂取100%以上(R4：ハランス73.9%)		◇体力向上の取組の推進 ◇心身の健康と安全についての指導の充実 ◇相手を意識した規範意識の向上 ◇健康な体づくりへの取組(朝食、徒歩通学、縄跳び、外遊び等) ◇児童が考えて行動する場の設定 ◇学校生活のきまりの定着			
		【PDCAサイクル】 ○学校経営方針や指標等の共有が進み、意識した学級経営や部会運営ができていく。 ●計画的な中間評価を行っていく。 【開かれた学校づくり】 ○HPやすぐー等の積極的活用が進んでいる。 ○お便り等のデジタル化については保護者の意識が高い。 【安心・安全】 ○特別支援教育についての研修や細やかな支援、児童理解について進めることができた。 ○計画的な避難訓練が実施できている。 ○地域の方の協力体制があり、登下校の見守りができている。 ●防犯訓練が実施できていない。 ●児童一人一人に寄り添う教員の言動が求められている。(昨年度の保護者アンケートより) 【働き方改革の推進】 ○教職員の時間外在校等時間が月平均40時間未満となり、目標を達成している。 ●校務分掌や業務内容等の見直しを進めていく。 【家庭・地域との連携】 ○学校支援コーディネーターを中心に地域学校支援ボランティアの協力体制がある。 ○月1回(毎週木曜日)のあいさつ運動が定着。地域の参加人数は毎回20人を超えている。 ○地域人材や知的・文化的・歴史的な教育環境が整っている。 ○地域や保護者が協力的。 ●香南市外からの転入者や転入教員が増えており、横の関係を作っていくことに苦勞があり、時間も必要。		全ての学年で連携した活動を2回以上実施する。 【さいこうの学校づくりアンケート】「いつでもどこで地震が発生しても、自分の身を守ることができる」高学年100% 【さいこうの学校づくりアンケート】「学校は安全意識(防災、交通安全、生活安全)を高める取組をしている」強肯定60%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】「学校は家庭への情報提供を積極的にしている」強肯定70%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】「学校は子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定50%以上 学校だより、学年だより月1回発行 校長だより「さくらだより」月4回以上発行 HP更新年間70回以上 すぐーでの配信月10回以上 年間を通して不祥事防止に取り組む、定期的に面談を実施する。		【PDCAサイクル】 ◇各行事や学期ごとの振り返り、児童・保護者・学校関係者へのアンケート実施、学校運営協議会の開催) 【開かれた学校づくり】 ◇学校の情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりの具現化を目指す。 ◇様々な教科・活動の授業参観を実施する。 【安心・安全】 ◇防災・防犯訓練の充実、家庭との連携、民生児童委員や学校地域応援隊「桜人」との連携 【働き方改革の推進】 ◇教育活動の精選、会議時間の短縮と精選、校務支援システムやグループウェア・すぐー等の活用による時間外勤務の短縮 ◇学年体制・学校体制の意識強化(コミュニケーションを深める) 【家庭・地域との連携】 ◇月第3木曜日のあいさつ運動、環境整備 ◇地域人材・知的文化的な教育環境を生かした学習活動の充実 ◇佐古保育所との連携の推進(1年・2年・5年が中心となつて) 【不祥事防止】 ◇学校の組織力向上や風通しのよい職場づくりに努める。 ◇教員同士のコミュニケーションを豊かにしていく。			

短期計画【知】〈令和(5)年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達目標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
◇自ら学びに向かう授業づくりは73.9% ・意識調査を行い、各学年での分析は行ったが、全体の共有や取組までには至っていない。 ・高学年を中心に取り組んできたが、取り組みを共有し広げることができなかった。 ◇子供にわかる授業づくりは89.3% ・校外研修については掲示板や資料回覧での情報共有に留まっており、伝達研修の時間の確保が課題である。 ◇基礎基本の定着と家庭学習の習慣化は93.3%	【全国学力学習状況調査正答率】(国・算)全国・高知県平均以上 【高知県学力定着状況調査正答率】(国・算・理)全国・高知県平均以上 【標準学力調査正答率】(国・算)全国平均以上 【学力調査正答率】経年比較での向上 【魅力生活アンケート】「授業に主体的に取り組んでいる」強肯定76%以上 「授業がよく分かる」強肯定73% 【さいこうの学校づくりアンケート】「話し合いを通じて、友達意見を参考にし、自分の考えを広げている」肯定94%以上 【生活がんばりカード】家庭学習(低20分・中40分・高60分以上)90%以上	◇自ら学びに向かう授業づくり ①外国語の授業研究を基盤として主体性を伸ばす授業づくりを行う。 ②外国語意識調査結果を検証する。 ③「書くこと」に重点を置いた指導を行う。 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ①外国語において全校研3名、全校研事前研3名、ブロック研3名、ブロック研事前研3名実施する。 ②4月、7月、12月に意識調査を実施して分析する。 ③条件付き作文や、行事作文に計画に沿って取り組む。 ◇子供にわかる授業づくり ①標準学力調査を分析して課題対応を行う。 ②校外研修に参加し、研修内容を校内で伝達する。 ③授業を見合って、指導力を向上させる。 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ①標準学力調査結果に基づいた課題分析を各学年で行う。 ②授業づくり講座を中心に、各教員が1回以上の授業づくり研修に参加し、内容の校内伝達を行う。 ③授業交流以外にコーナーを設けて板書交流を行う。 ◇基礎基本の定着と家庭学習の習慣化 ①学習支援が必要な児童を対象として、算数・国語教室を実施し、個別指導を行う。 ②「家庭学習のすすめ」を配布して家庭学習の習慣化を図る。 ③授業につながる学習課題を与える。(タブレットドリルを含む) ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ①週2回(火・木)、放課後に地域ボランティアの協力も得て、算数・国語教室を実施する。 ②年度始めに「家庭学習のすすめ」と「自主学習の手引き」を各学年で配布する。 ③学期終了後、各学年の取組状況や反省をまとめ、次学期以降の方向性を検討する。	学びづくり部			

短期計画【徳】〈令和(5)年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
○「学校が楽しい」の肯定が90%を超えている。(R4:強72%、肯定92%) ○「みんなで何かをするのは楽しい」の強肯定が80%を超えている。(R4:84%) ○家庭環境に恵まれた児童が多く、長期欠席児童が少ない(R4:1名) ○素直で明るい児童が多い。 ○定期的・計画的に校内支援を行い組織的に取り組むことができている。 ●あいさつができていないと感じている保護者が3割近くいて、校内だけでなく家庭や地域での挨拶が課題である。 ●暴力を受けたことがある児童の割合は1割だったが、さいこうの学校づくりアンケート「先生はなんでも相談しやすい」は強肯定が7割だった。	【魅力生活アンケート】 「学校が楽しい」肯定100% 「みんなで何かをするのは楽しい」肯定90%以上 【道徳意識調査】 「道徳の授業が好き」肯定90%以上 「自分には良いところがある」肯定90%以上 「人が困っている時は、進んで助けている」低肯定95%以上 中・高肯定90%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】 「だれにでも進んであいさつができる」肯定93% 「学校の先生は話を聞いてくれる」93%以上	◇自尊感情を育む授業づくり ①「考え、議論する」道徳の授業実践をめざした授業改善を行う。 ②授業や特別活動を通して道徳項目の行動化と啓発に努める。 ③生徒指導の三機能を活かした授業づくりを定着させる。 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ・全学級、年間1回道徳の授業公開を行う。(参観日や訪問時) ・全児童を全教員で育てる。 ◇良さや違いを認め合う学校風土づくり ①校内支援会の充実を図り、職員会の児童理解のコーナーで支援方法を共有する。 ②ありがとうカードを学期に一回取組み、学年を超えた交流の機会を持ったり、友だちの良い所見つけを継続的行ったりする。 ③あいさつの日常的な意識化を図る取組を工夫し継続して行う。 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ・児童会が月一回のあいさつ運動に積極的に参加をする。 ・気持ちよく生活をしていくための環境を整えていく。 ・校内支援会や計画的に校内研修会を行う。	心づくり部			

短期計画【体】〈令和(5)年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
○5年生「運動が好き」の強肯定が男子は84.6%、肯定92.4%。女子は肯定100%。(強68.4%) ○5年生「運動は大切」男子肯定84.6%、女子は肯定100%。 ○生活一般において、いわれたことは取り組もうとする素直さがある。 ●教員の体育科の授業改善に対する意識は、国語科や算数科に比べて低い。 ●共働き家庭が多く、家庭での基本的生活習慣が身に付きにくい面がある。(児童クラブへ通っている児童82名、放課後デイに通っている児童11名) ●徒歩通学が7割となっている。	【全国体力・運動能力調査】 体力合計点全国平均以上、D・E評価割合25%以下 【さいこうの学校づくりアンケート】 「体を動かすのが好き」肯定90%以上 「体育の授業が好き」肯定90%以上 「学校のきまりを守っている」90%以上 「こうちの子ども体力・運動能力プログラム」を活用した授業を行ったを100% 年1回以上、講師を招聘し体育の授業づくりの研修を行う。 「生活がんばりカード」早寝85%以上 (R4:78.9%) 朝食摂取(バランスの取れた)75%以上 (R4:73.9%)	◇体力が向上する授業づくり ①体育の時間に帯タイムを設定し、単元の主運動につながる「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」に取り組む。 ②副読本「わたしたちの体育」を活用する。 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ・年1回以上、講師を招聘し、体育の授業づくり研修を行う。 ◇生活習慣への自己管理意識の向上 ①生活がんばりカードに取り組む。 ②生活習慣、いのちの学習、喫煙防止、薬物乱用防止の教室を関係機関と連携して行う。 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ・学期ごとに生活がんばりカードを実施し、結果を保健だより等を活用して家庭と共有し取り組んでいく。 ・バランスの取れた朝食摂取、徒歩通学、縄跳び、外遊び等に取り組んでいく。 ◇相手を意識した規範意識の向上 ①学校生活のきまりの定着 ②児童が考えて行動する場の設定 ◆学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 ・集会で「学習のきまり」「生活のきまり」を全教職員・全児童で共有する。 ・4月の児童会目標に設定し、組織的に取り組む。 ・さいこうの学校にするために、自分たちにできることを、委員会を中心に話し合いをさせ取り組ませていく。	体づくり部			

短期計画【横断】〈令和(5)年度〉						
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
【PDCAサイクル】 ○学校経営方針や指標等の共有が進み、意識した学級経営や部会運営ができている。 ●計画的な中間評価を行っている。 【開かれた学校づくり】 ○HPやすぐーの積極的活用が進んでいる。 ○お便り等のデジタル化については保護者の意識が高い。 【安心・安全】 ○特別支援教育についての研修や細やかな支援、児童理解について進めることができた。 ○計画的な避難訓練が実施できている。 ○地域の方の協力体制があり、登下校の見守りができている。 ●防犯訓練が実施できていない。 ●児童一人一人に寄り添う教員の言動が求められている。(昨年度の保護者アンケートより) 【働き方改革の推進】 ○教職員の時間外在校等時間が月平均40時間未満となり、目標を達成している。 ●校務分掌や業務内容等の見直しを進めていく。 【家庭・地域との連携】 ○学校支援コーディネーターを中心に地域学校支援ボランティアの協力体制がある。 ○月1回(毎週木曜日)のあいさつ運動が定着。地域の参加人数は毎回20人を超えている。 ○地域人材や知的・文化的・歴史的な教育環境が整っている。 ○地域や保護者が協力的。 ●香南市外からの転入者や転入教員が増えており、横の関係を作っていくことに苦労があり、時間も必要。	全ての学年で連携した活動を2回以上実施する。 【さいこうの学校づくりアンケート】 「いっどこで地震が発生しても、自分の身を守ることができる」高学年100% 【さいこうの学校づくりアンケート】 「学校は安全意識(防災、交通安全、生活安全)を高める取組をしている」強肯定60%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】 「学校は家庭への情報提供を積極的にしている」強肯定70%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】 「学校は子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定50%以上 学校だより、学年だより月1回発行 校長だより「さくらだより」月4回以上発行 HP更新年間70回以上 すぐーでの配信月10回以上 年間を通して不祥事防止に取り組み、定期的に面談を行う。	学校評価教職員アンケート取組指標85%以上 【PDCAサイクル】 ・各行事や学期ごとの振り返りを行う。 ・児童・保護者・学校関係者へのアンケートを実施する。 ・学校運営協議会を年間3回、桜人運営委員会を年間2回実施し、地域学校協働活動の推進や支援ボランティアの拡大を図る。 【開かれた学校づくり】 ・学校の情報発信を積極的に行う。 ・様々な教科・活動の授業参観を実施する。 【安心・安全】 ・高知県学校安全プログラム等を参考としながら、学年の系統性を考えたカリキュラムに改善する。 ・関係機関との連携を図り、不安傾向のある児童に対する早期把握と早期対応を行う。 【働き方改革の推進】 ・教育活動の精選、会議時間の短縮と精選、校務支援システムやグループウェア・すぐー等の活用による時間外勤務の短縮を行う。 ・個別面談を通して、働き方改革への意識向上を図る。 ・コミュニケーションを大切にし、学年体制・学校体制の意識強化を図る。 【家庭・地域との連携】 ・月第3木曜日のあいさつ運動を計画的に行う。 ・「さこ学」のカリキュラムにより、地域課題に沿った内容に改善する。の充実 ・佐古保育所との連携を(1年・2年・5年が中心となって) ・コミュニティスクールに関する啓発活動を行う。 【不祥事防止】 ・学校の組織力向上や風通しのよい職場づくりに努める。 ・教員同士のコミュニケーションを豊かにしていく。	校長教頭			